

4. 超音波検査の感染防止対策

小柳 紀子 東海大学医学部付属病院臨床検査技術科

生理検査室では、新型コロナウイルス感染症 (以下、COVID-19) 対策を講じる以前より常時マスクは着用し、検査前後および端末操作前には必ず手洗いまたはアルコールによる手指衛生を徹底して実践してきた。また、移動による感染拡大のリスクを回避するため、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (以下、MRSA) などの感染症患者の検査は、すべて病室でのポータブル検査で対応している。超音波診断装置による交差感染 (間接接触感染) の効果的な防止対策としては、装置の消毒を検討¹⁾し実践している。病室での个人防护具着脱に関しても、新入職員、異動者、復職者などには検査に携わる前に研修が必須であり、生理検査室スタッフも1年に1回の防护具着脱の研修を行っている。

本稿では、これらの基本的な感染症対策に加えて、当院検査室で行っているCOVID-19に対する工夫を紹介する。

無症状のCOVID-19患者が多いことも周知の事実である。外来患者の中に無症

状のCOVID-19感染者が紛れている可能性があることを念頭に入れて対応することが重要である。

生理検査室における感染防止対策

1. 検査室内の環境対策

● 検査ブース内の消毒

市販の消毒用アルコールタオルを用い、検査ブース内の患者が接触する部位 (ベッド、ベッド手すり、枕、探触子、ドアノブ、靴べら、脱衣かご) の消毒を実施している。消毒は検査開始直前と終業時に行っている。

従来使用していたベッドシートと枕カバーは廃止し、現在、枕はラップでカバーしている。ベッドシートを撤廃したため、「冷たい」との申し出があった場合は、敷バスタオルで対応している。敷バスタオルは、患者ごとに未使用のバス

タオル1枚で対応している。

● 業務終了後の消毒

業務終了後は、①端末のキーボードおよびマウス、②待合室の椅子の消毒を実施している。

● 飛沫飛散防止シートの設置

検査室受付に飛沫飛散防止シートを設置した。

2. 手指衛生

● 検査前後の手指消毒実施

検査ブース内と結果処理スペースの端末周辺に消毒用アルコールを設置して、検査前後や結果処理前に手指消毒を実施している。この対応は、COVID-19感染症が蔓延する以前より実施していた感染対策であるが、より徹底することにした。

3. 个人防护具

● 全来院者に対しマスク着用のお願い

検査室では、検査する部位がマスクで

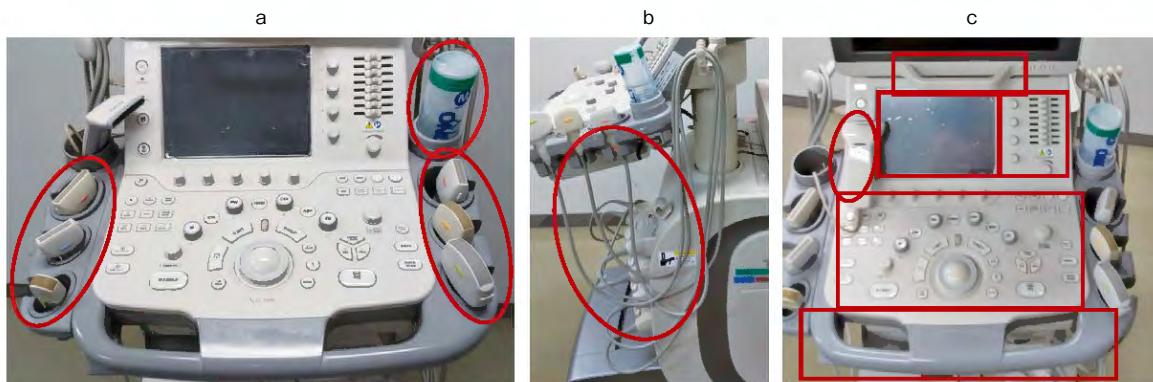


図1 装置前面の消毒箇所
a: ゲル容器, プローブ b: プローブコード c: 操作パネル周辺